

てんこ新聞

4.4 No.202
発行 土曜日
責任 0883-88-5292
発費

山笑うという季節になり、自然と心が開かれると人々も笑顔が多くなる。かき。山、山に囲まれて、自然の中に生きこころを常に感じている生活している。その自然の変動に驚かされている。

先日、夜中にドドーンと揺れた。それから三日は、会うと地震の話になる。地震は、全然知らない人もいる。人、それだけ。家を飛び出す人もいたように思うが、私は、7つある球になる。と考える。ラゴオのクッケを、入山、情報を聞く。

何処か震源地か、という事と、何処にも震源地があるの、そこは、大丈夫かだけが気になる。幸い、今回はよかったです。メールや手紙で気をつけて山下でいる人がいる事を嬉しく感じました。

東日本大震災からまだ三年しかたっていないのに、原発を今まで通り推進している日本。お金にほれば、みんなをやるのは、人間の本性なの、日本人の特性なの、それとも、社会

人も竹笑う

制度のひせることなのか、よく解りません。ただ、思うのは、うまもまあり、あちこちでも嘘め、ひとと多しことかという事です。誰を、何を信じたいのか、のびしょうか。これでは、心の底からは笑えません、ニガ笑い、ごうい

山笑う



ひらけ笑えますが、どこかで嘘だけでお金を儲けている人がいると、何か公平でいられない。戦争をはじめるにも嘘をつき重ねてはじめて、国策というものので、え、そうなのだから、他は、こは、小言を嘘かも知れませんが、国が世界から信用されなくなると、どうなるのびしょうか。そんな事も時々考えますが、花咲く春を迎え、自然の中で季節の移り変わりを感じて山を歩いたり、昔の里道を巡っていると、嘘は感じません。いつかの時がくれば、また花を笑かせこくれます。

わも...



煙草も手紙をくれば、ちゃんと言ひを分けくれば、す。信賴がますます。山が笑う様になれば、自分もウキウキして行動的になる。くる。生きえる証しなのかも知りません。それでも、人との甲で生きているか、なければなりません。鹿猪、など野生動物とだけ、は生きよう、ないのだから、嘘を見取いて、人との間を繋ごまなければ、死なないのびしょう。ノンゼリ、生きると、余計な事を考えこまきつ。身当持って、山へ行こう、をうれば、スツヤリする。なる。

～ 鉾ヶ原から 木の背を望む ～

